

第3章 地域福祉に関する現状と課題

第1節 統計データでみる地域福祉の状況

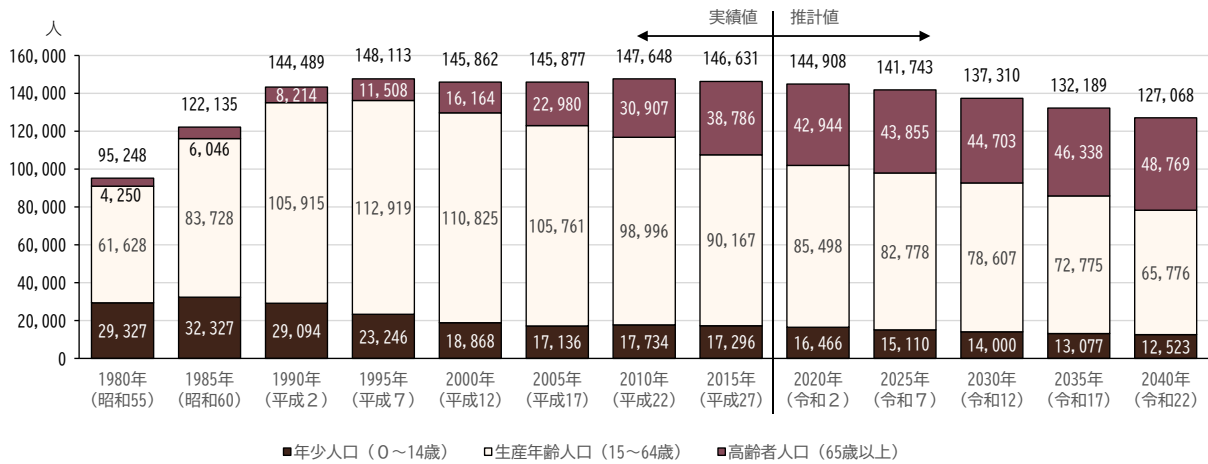
1 人口・世帯の状況

(1) 人口の推移

○多摩市の人口は、2015（平成27）年から2040（令和22）年にかけて、約2万人減少すると見込まれます。

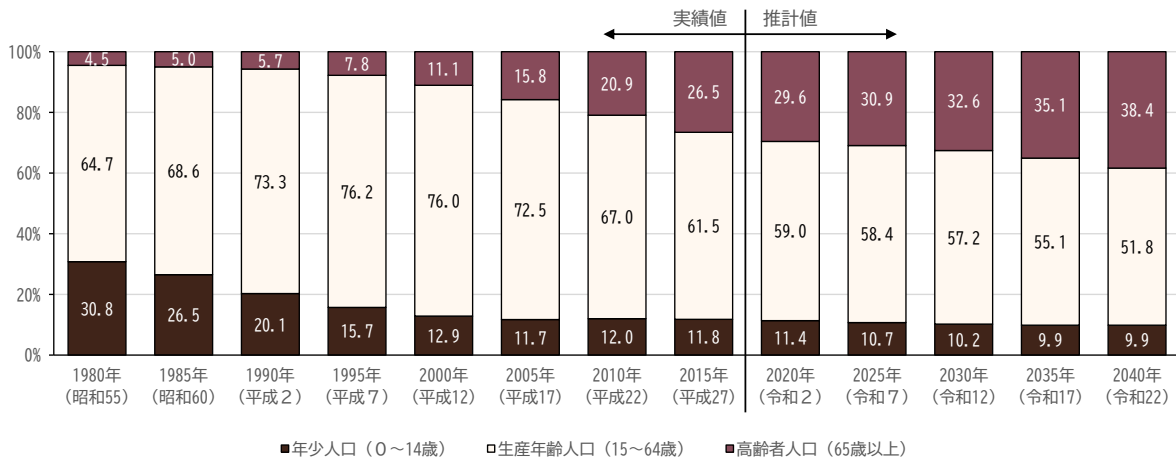
○年齢3区分比率では、同期間中、高齢者人口割合のみ増加し、26.5%から38.4%へと11.9ポイント増加すると見込まれます。

■年齢3区分人口の推移・推計



資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年）」

■年齢3区分比率の推移・推計



資料：国勢調査、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年）」

○年齢3区分比率の全国との比較では、同期間中、高齢者人口割合は2020（令和2）年に逆転し、2040（令和22）年には2.1ポイント上回る見込みです。また、東京都との比較では、2015（平成27）年時点で3.8ポイント上回っていましたが、2040（令和22）年には9.6ポイント上回る見込みです。

■年齢3区分比率の推移・推計（全国・東京都・多摩市比較）

%		2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年
		(平成27)	(令和2)	(令和7)	(令和12)	(令和17)	(令和22)
全国	0-14歳	12.5	12.0	11.5	11.1	10.8	10.8
	15-64歳	60.8	59.1	58.5	57.7	56.4	53.9
	65歳以上	26.6	28.9	30.0	31.2	32.8	36.3
東京都	0-14歳	11.3	11.2	10.9	10.6	10.4	10.4
	15-64歳	66.0	65.4	65.5	64.7	63.1	60.5
	65歳以上	22.7	23.4	23.6	24.7	26.5	29.0
多摩市	0-14歳	11.8	11.4	10.7	10.2	9.9	9.9
	15-64歳	61.5	59.0	58.4	57.2	55.1	51.8
	65歳以上	26.5	29.6	30.9	32.6	35.1	38.4

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（平成30年）」

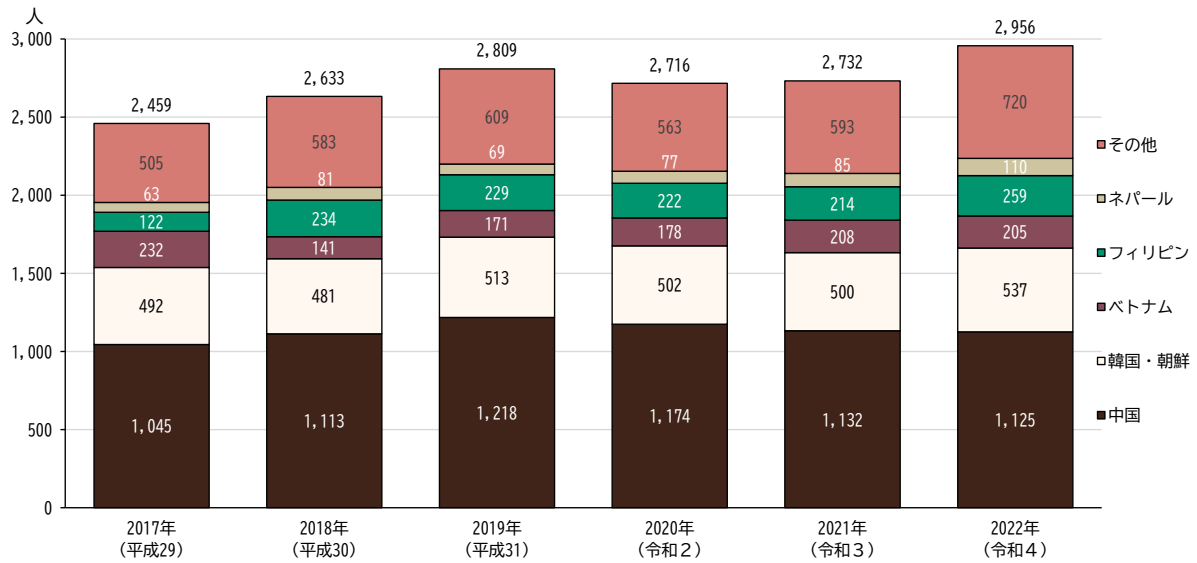
（2）外国人住民人口の推移

○多摩市の外国人住民人口は、2017（平成29）年から2019（令和元）年にかけて、増加傾向にありましたが、2021（令和3）年に向けて減少、その後2022（令和4年）に向けて再び増加しています。国別では、中国および韓国・朝鮮で全体の6割以上を占めています。

○国籍数は、2012（平成24）年から2022（令和4）年にかけて、62カ国から70カ国に増えています。

○2022（令和4）年10月1日現在の国籍・地域別外国人人口の比較では、多摩市の外国籍人口は26市中13位となっています。

■外国人住民人口の推移



資料：東京都総務局統計部（各年10月1日現在）

■国籍別外国人人口（上位10位）

国・地域	総数	中 国	韓 国	ベ ト ナ ム	フ イ リ ピ ン	ネ パ ー ル	台 湾	米 国	イ ン ド	ミ ャ ン マ ー	タ イ	そ の 他	前年同月との比較	
													総数	増減数
総数	569,979	225,098	85,752	36,708	33,616	27,349	19,032	19,607	15,547	13,121	7,979	86,170	522,732	47,247
区	475,831	193,743	72,540	27,931	24,857	23,086	16,429	16,024	14,389	11,988	6,450	68,394	435,020	40,811
市	92,747	31,223	13,080	8,514	8,460	4,219	2,589	3,515	1,155	1,111	1,485	17,396	86,408	6,339
八王子市	14,059	5,346	1,803	1,360	1,393	552	319	328	167	157	175	2,459	12,898	1,161
町田市	7,954	2,889	1,014	718	685	181	203	270	145	54	128	1,667	7,244	710
府中市	5,468	1,677	770	429	573	101	188	263	51	67	88	1,261	5,044	424
小平市	5,289	1,695	1,027	351	286	184	129	130	35	64	111	1,277	4,868	421
立川市	5,082	2,097	735	509	404	251	127	158	43	58	42	658	4,699	383
西東京市	4,898	1,976	923	283	317	175	201	166	36	78	66	677	4,680	218
調布市	4,708	1,596	968	347	321	129	175	167	51	59	83	812	4,428	280
三鷹市	3,917	1,137	654	209	178	101	197	357	56	29	61	938	3,527	390
福生市	3,517	522	178	771	393	531	88	110	110	41	116	657	3,386	131
日野市	3,466	1,286	450	337	285	133	61	98	34	104	58	620	3,259	207
武蔵野市	3,253	1,138	459	115	100	197	177	273	63	27	44	660	3,097	156
東村山市	3,239	1,195	458	236	296	255	66	56	12	39	59	567	2,990	249
多摩市	2,956	1,125	537	205	259	110	72	61	66	46	36	439	2,732	224
小金井市	2,919	1,116	273	203	134	239	79	211	24	27	59	554	2,709	210
昭島市	2,912	747	462	316	393	307	48	68	43	54	32	442	2,765	147
国分寺市	2,614	1,165	385	142	109	214	70	94	27	21	31	356	2,565	49
東久留米市	2,346	737	310	175	261	75	53	237	83	24	34	357	2,249	97
青梅市	2,216	328	193	415	453	78	83	66	3	29	60	508	2,002	214
国立市	1,846	674	327	189	75	102	61	83	21	15	22	277	1,666	180
武蔵村山市	1,729	632	141	255	379	27	22	28	2	8	27	208	1,811	△ 82
稲城市	1,607	503	274	110	147	36	37	41	31	21	29	378	1,508	99
羽村市	1,587	218	79	266	267	48	20	53	17	22	17	580	1,399	188
清瀬市	1,380	492	144	102	217	55	33	42	11	13	24	247	1,308	72
狛江市	1,352	392	199	135	131	93	38	53	21	12	35	243	1,305	47
東大和市	1,299	376	212	100	257	31	19	33	1	7	19	244	1,224	75
あきる野市	1,134	164	105	236	147	14	23	69	2	35	29	310	1,045	89

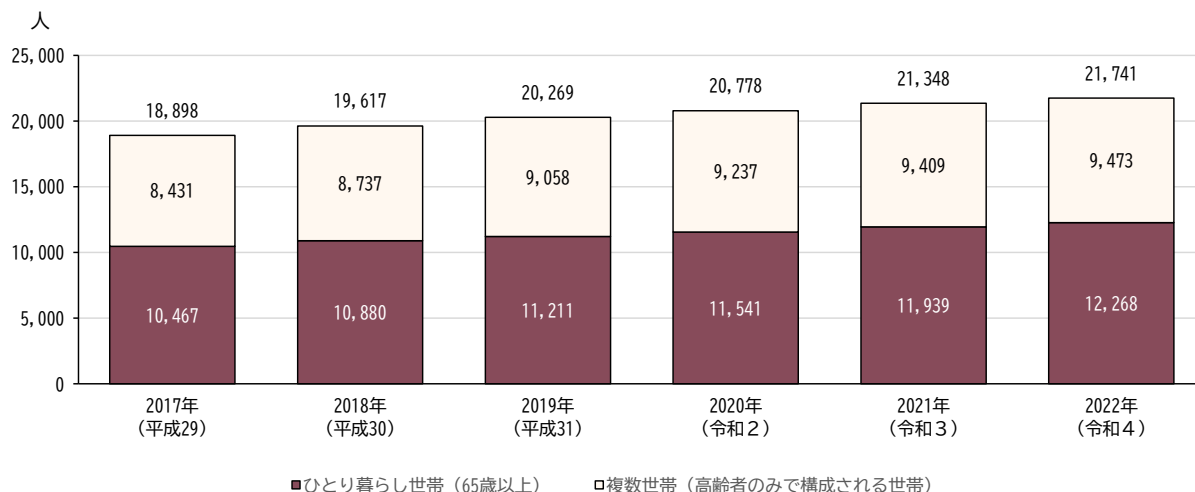
※国籍・地域の名称は在留管理制度に基づく在留カード等の「国籍・地域」欄の表記による。
資料：東京都総務局統計部（令和4年10月1日現在）

2 高齢者・障がい者・地域等の状況

(1) 高齢者世帯の状況

〇2017（平成29）年から2022（令和4）年にかけて、ひとり暮らし世帯（65歳以上）及び複数世帯（高齢者のみで構成）の数は増加傾向にあります。

■ 高齢者世帯の推移

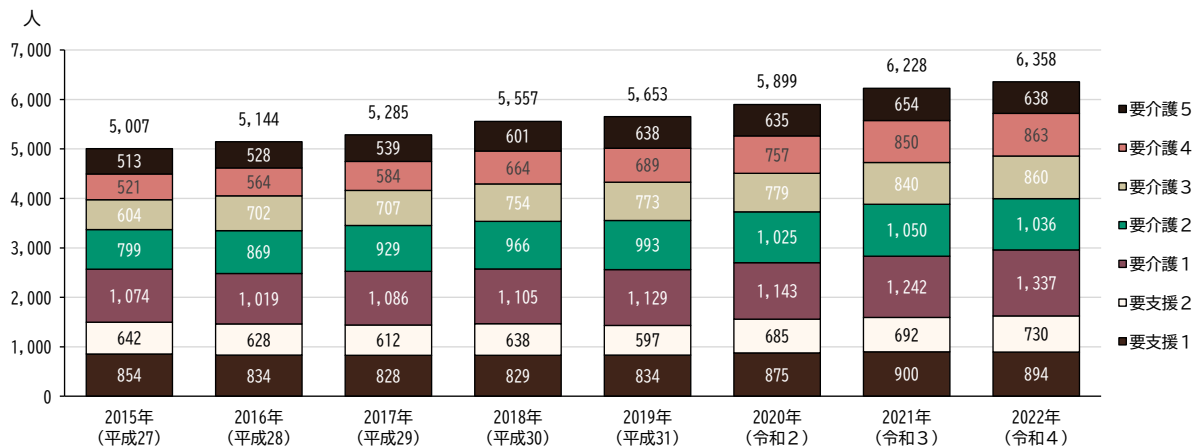


資料：住民基本台帳人口（各年1月1日現在）

(2) 要支援・要介護認定者の状況

〇2015（平成27）年から2022（令和4）年にかけて、要支援・要介護認定者数はいずれの介護度も増加傾向にあり、総数では1.27倍に増加しています。

■ 要支援・要介護認定者数の推移



資料：介護保険課（各年4月1日現在）

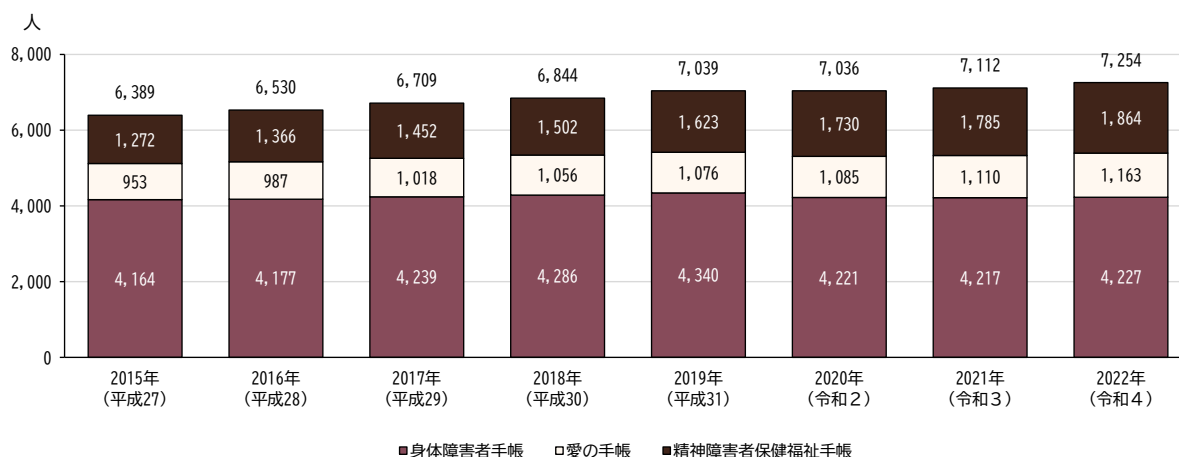
(3) 障がい者手帳所持者の状況

○身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳の所持者は、2022（令和4）年4月現在、7,254人となっています。このうち、身体障害者手帳所持者が4,227人で全体の約6割を占めており、愛の手帳（知的障がい者・児が対象）所持者が1,163人、精神障害者保健福祉手帳所持者が1,864人となっています。

○年齢別に各手帳所持者数をみると、身体障害者手帳所持者では65歳以上が約7割を占めています。愛の手帳（知的障がい者・児が対象）所持者では、18～64歳の人々が7割以上を占めています。精神障害者保健福祉手帳所持者は、18～64歳の人々が8割強を占めています。

○障害支援区分別に手帳所持者数をみると、2018（平成30）年から2022（令和4）年にかけて、特に愛の手帳4度が77人、精神障害者保健福祉手帳2級が228人、3級が100人と大きく増加しています。

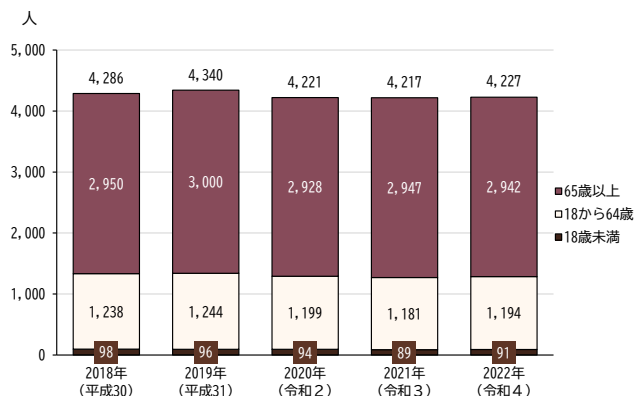
■障がい者手帳所持者数の推移



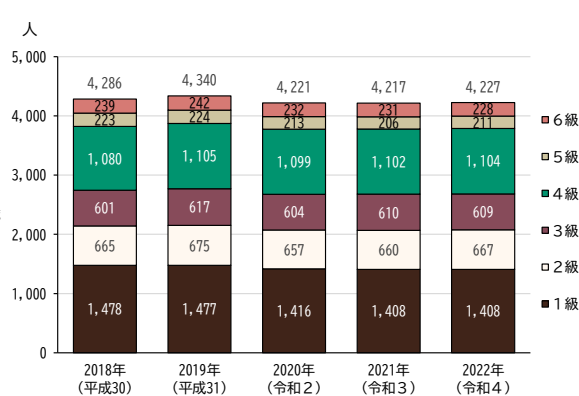
資料：障害福祉課（各年4月1日現在）

■身体障がい者手帳所持者数の推移

【年齢別】

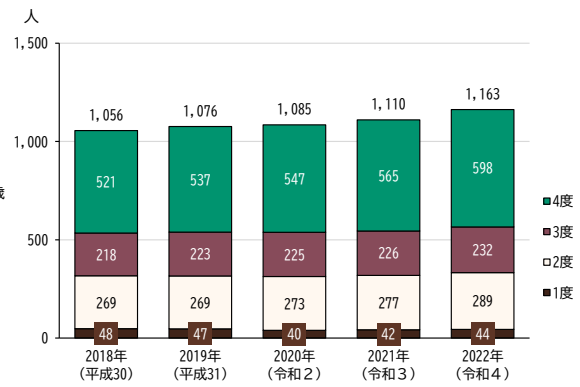
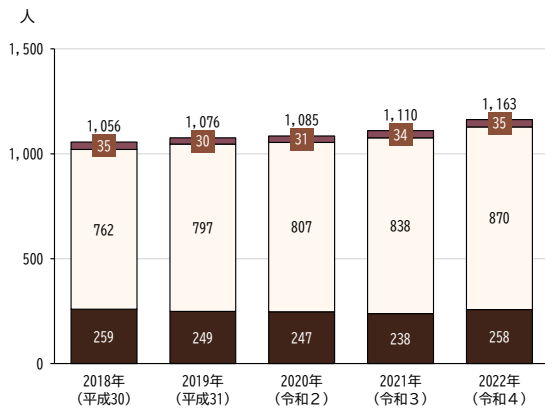


【支援区分別】



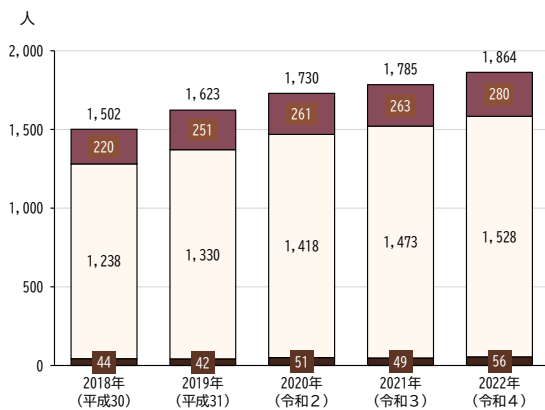
資料：障害福祉課（各年4月1日現在）

■知的障がい者『愛の手帳』（東京都療育手帳）所持者数の推移
【年齢別】 【支援区分別】

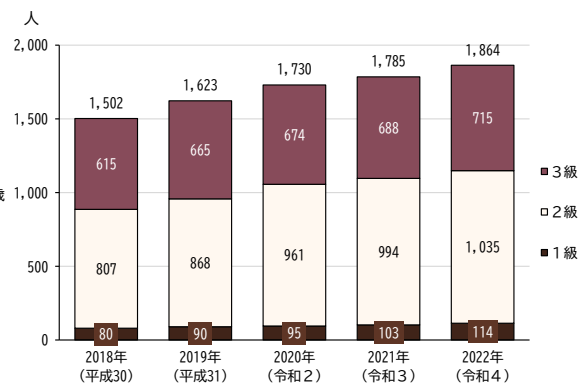


資料：障害福祉課（各年4月1日現在）

■精神障がい者手帳所持者数の推移
【年齢別】



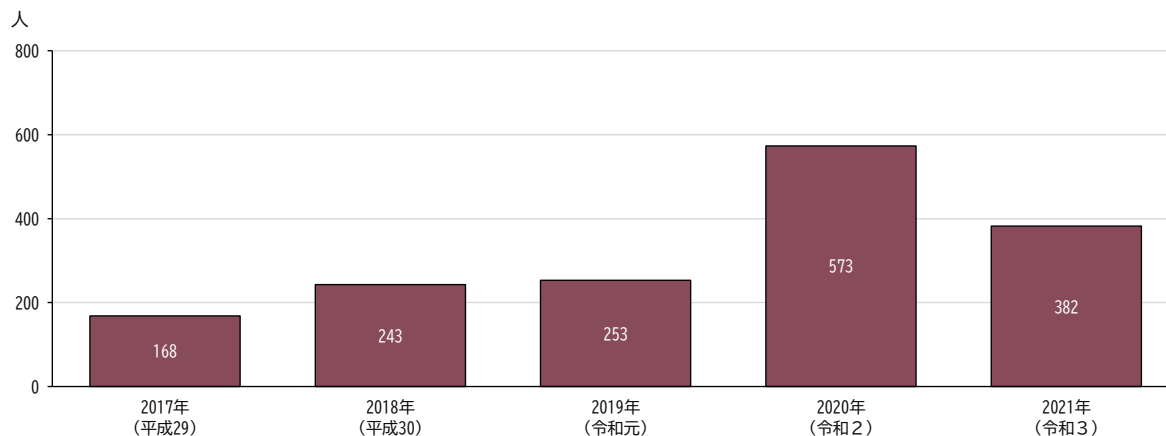
【支援区分別】



資料：障害福祉課（各年4月1日現在）

(4) 生活困窮者・生活保護の状況

■生活困窮者等自立相談支援事業における新規相談受付数（実人数）



資料：福祉総務課（各年度末時点）

■生活困窮者等自立相談支援事業における主な相談内容

相談内容	2016(平成28)年度	2017(平成29)年度	2018(平成30)年度	2019(令和元)年度	2020(令和2)年度	2021(令和3)年度
収入・生活費のこと	48人	58人	168人	151人	248人	196人
仕事探し・就職について	24人	31人	92人	98人	101人	105人
家賃やローンの支払のこと	13人	6人	52人	66人	309人	146人
住まいについて	16人	16人	60人	67人	111人	80人
税金や公共料金等の支払のこと	6人	7人	48人	35人	74人	43人
病気や健康、障害のこと	5人	5人	64人	58人	53人	61人
債務について	1人	5人	27人	23人	19人	31人
仕事上の不安やトラブル	1人	1人	11人	18人	18人	15人
家族との関係について	2人	6人	26人	29人	24人	33人
ひきこもり・不登校	1人	6人	21人	22人	30人	13人
食べるものがない	1人	0人	4人	5人	6人	11人
その他	14人	27人	39人	21人	70人	15人

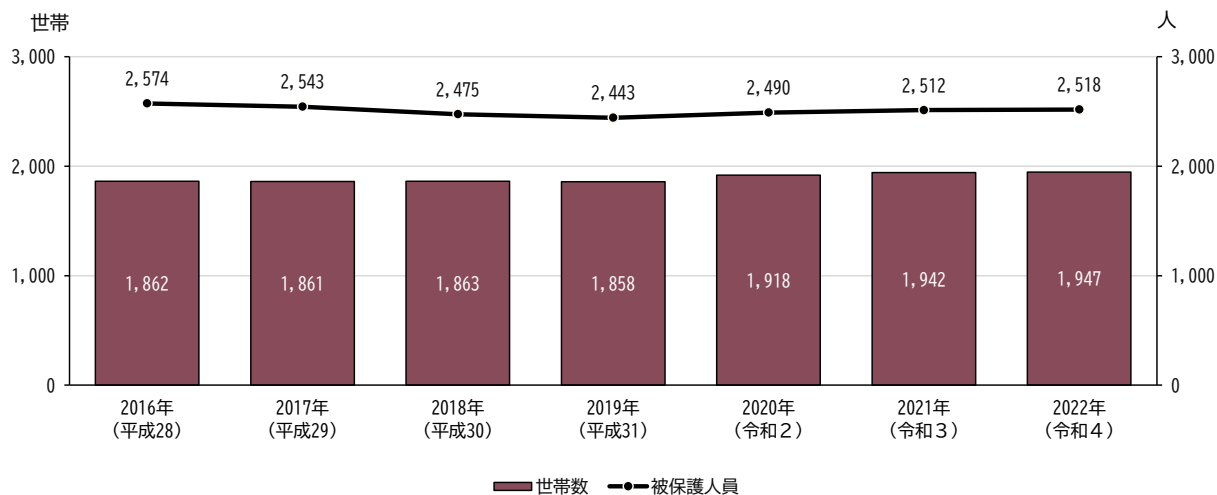
※2017（平成29）年度以前は単数回答。2018（平成30）年度以降は複数回答。

資料：福祉総務課（各年度末時点）

生活福祉資金の特例貸付に関するデータを掲載予定（件数、属性など）

○生活保護受給生態数・被保護人員ともに、2016（平成 28）年から 2019（平成 31）年にかけて減少傾向にありましたが、2019（平成 31）年から 2022（令和 4）年にかけて増加傾向となっています。

■生活保護受給生態数・被保護人員の推移

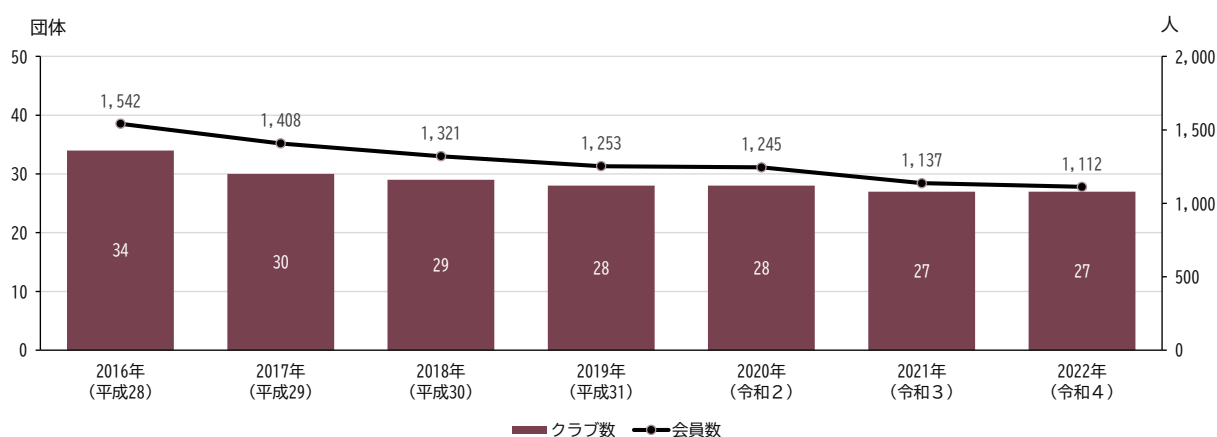


資料：生活福祉課（各年4月1日現在）

（5）老人クラブの状況

○2016（平成 28）年から 2022 年（令和 4）年にかけて、老人クラブ数、会員数ともに減少傾向となっています。

■老人クラブ数と会員数の推移

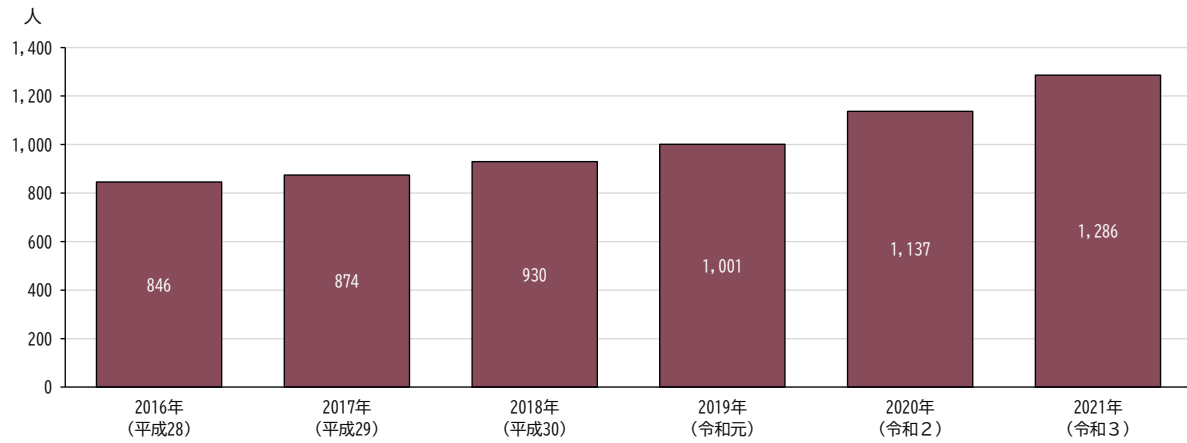


資料：高齢支援課（各年4月1日現在）

（6）シルバー人材センターの状況

○2016（平成28）年から2022年（令和4）年にかけて、シルバー人材センター会員数は増加傾向にあり、同期間中に約1.5倍に増加しています。

■シルバー人材センター会員数の推移

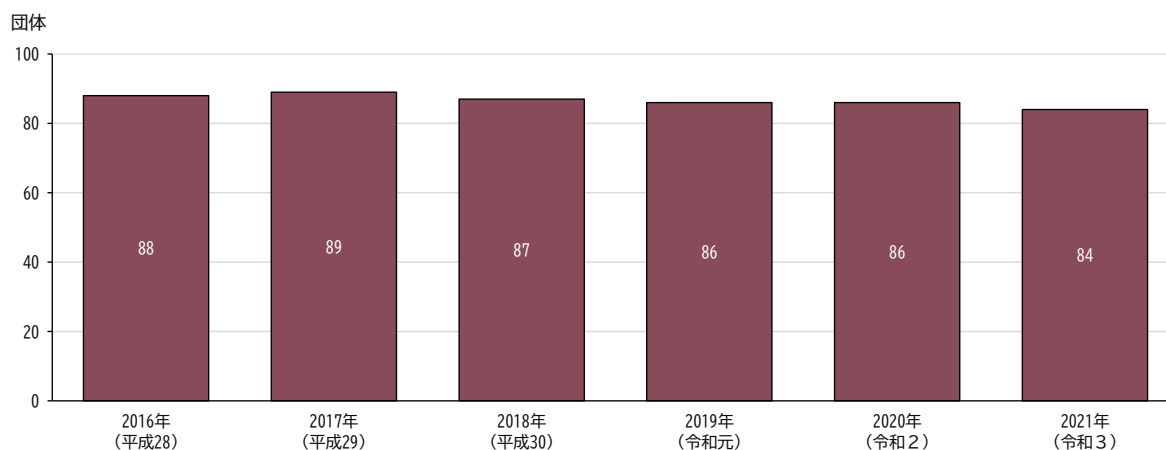


資料：高齢支援課（各年度末現在）

(7) NPO 法人数

○2016（平成 28）年から 2021 年（令和 3）年にかけて、NPO 法人数は横ばいで推移しています。

■NPO 法人数の推移



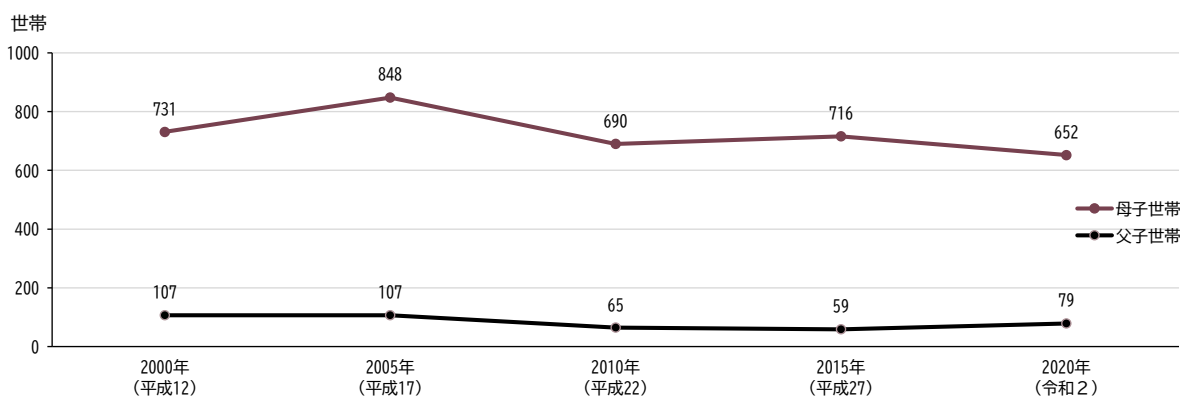
資料：平成 28～30：多摩市行政経営報告書
平成 31～令和 3：東京都生活文化局「認証 NPO 法人一覧」（各年 12 月末現在）
（東京都生活文化局ホームページより）

(8) 子どもに関するデータ

○ひとり親家庭数については、2000（平成 12）年から 2020 年（令和 2）年にかけて、母子世帯が 731 世帯から 652 世帯に、父子家庭が 107 世帯から 79 世帯に推移しています。

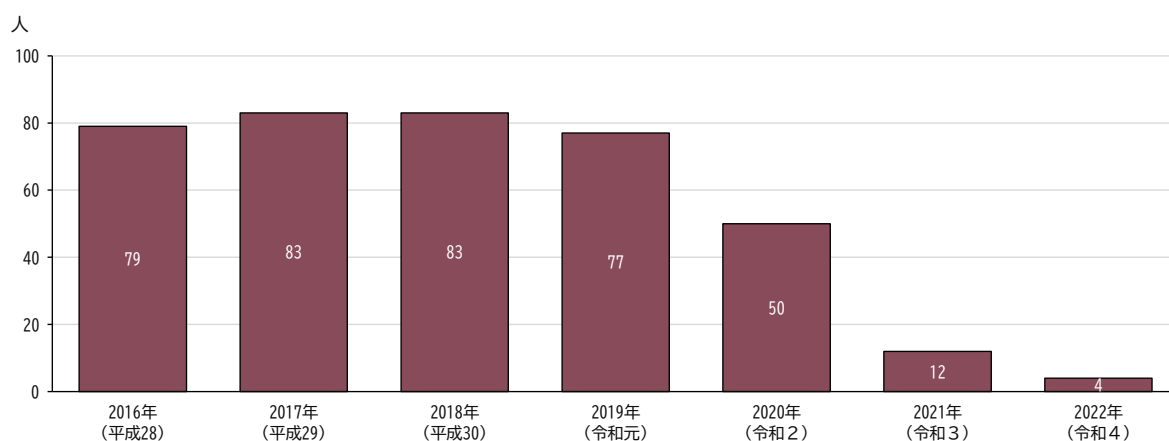
○新規虐待相談件数については、2016（平成 28）年から 2021（令和 3）年にかけて、133 件から 409 件に増加しています。

■ひとり親家庭数の推移



資料：国勢調査

■認可保育所等の待機児童状況



※認可保育所等：認可保育所、認定こども園、家庭的保育施設、小規模保育所、事業所内保育所
 ※待機児童数は令和4年度から採用の新定義による
 資料：子育て支援課（各年4月1日現在）

■新規虐待相談件数の推移

2016年 (平成28)	2017年 (平成29)	2018年 (平成30)	2019年 (令和元)	2020年 (令和2)	2021年 (令和3)	2022年 (令和4)
133	130	247	329	322	409	

資料：多摩市子ども家庭支援センター

就学援助に関するデータを掲載予定

(9) 再犯に関するデータ

■刑法犯発生件数の推移

2016年 (平成28)	2017年 (平成29)	2018年 (平成30)	2019年 (令和元)	2020年 (令和2)	2021年 (令和3)	2022年 (令和4)
1,016	1,524	1,248	1,063	874		

資料：多摩中央警察署

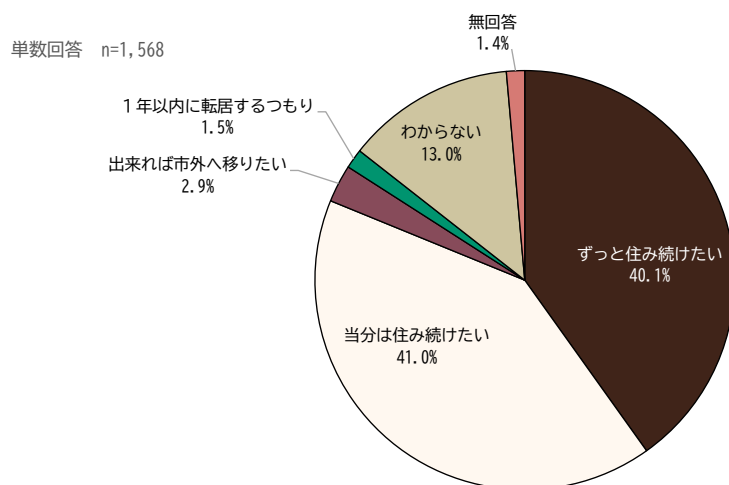
(10) 市の強みに関するデータ

○2022（令和4）年実施の市政世論調査によると、「ずっと住み続けたい」「当分は住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』が合わせて8割を超えています。

○住みよさの要素については、「緑の豊かさ」「日当たり・風通し」「空気がきれい」などがそれぞれ9割以上となっています。

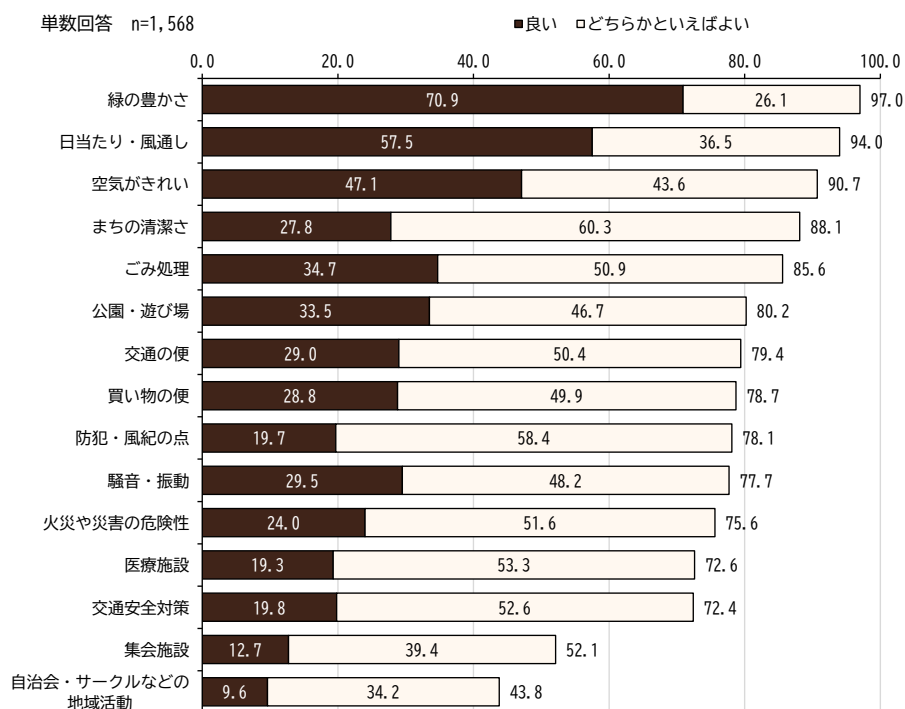
○市民1人あたりの市立公園面積の26市比較では、2021（令和3）年4月1日現在、多摩市が1位となっています。

■定住意向



資料：第39回多摩市政世論調査報告書（令和4年1月）

■住みよさの総合評価【肯定的評価】



資料：第39回多摩市政世論調査報告書（令和4年1月）

■市民1人あたりの市立公園（都市公園）の面積（26市比較）

多摩市	稲城市	八王子市	町田市	福生市	羽村市	府中市	青梅市	昭島市	日野市	東大和市	立川市	武蔵村山市	あきる野市	国立市	小平市	東久留米市	武蔵野市	狛江市	調布市	東村山市	西東京市	国分寺市	清瀬市	三鷹市	小金井市
13.6	11.0	10.1	7.7	7.1	6.2	5.0	4.7	4.3	3.9	3.6	3.2	3.1	2.3	2.0	1.8	1.8	1.3	1.3	1.2	0.9	0.8	0.7	0.7	0.7	0.5

資料：(出典)東京都建設局公園緑地部管理課「公園調書(令和3年4月1日現在)」(令和3年10月)

3 多摩市の健幸データ

(1)「健康寿命」と「平均余命」

「健康寿命」の定義は様々ありますが、ここでは、東京保健所長会方式による「65歳健康寿命(要介護2)」をご紹介します。東京保健所長会方式では、各区市町村が業務で把握する介護保険認定者数をもとに算出できることから、健康づくりと介護予防事業の行政指標として活用が可能です。

「65歳健康寿命(要介護2)」は、65歳の人々が、要介護2以上の認定を受けるまでの状態を「健康」と考え、その認定を受けた年齢を平均的にあらわすものです。

「65歳平均余命」は、65歳の人々の、平均寿命を示しています。

「65歳平均余命」から「65歳健康寿命」を引いた年数が、支援を必要とする期間です。

2020(令和2)年のデータでは、東京都平均と比較して、多摩市は、「65歳健康寿命」・「65歳平均余命」とともに長く、支援を必要とする期間も短いことが示されており、多摩市の健康寿命は都内トップレベルです。

■65歳健康寿命(要介護2)と65歳平均余命(令和2年)



資料：健幸まちづくり推進室

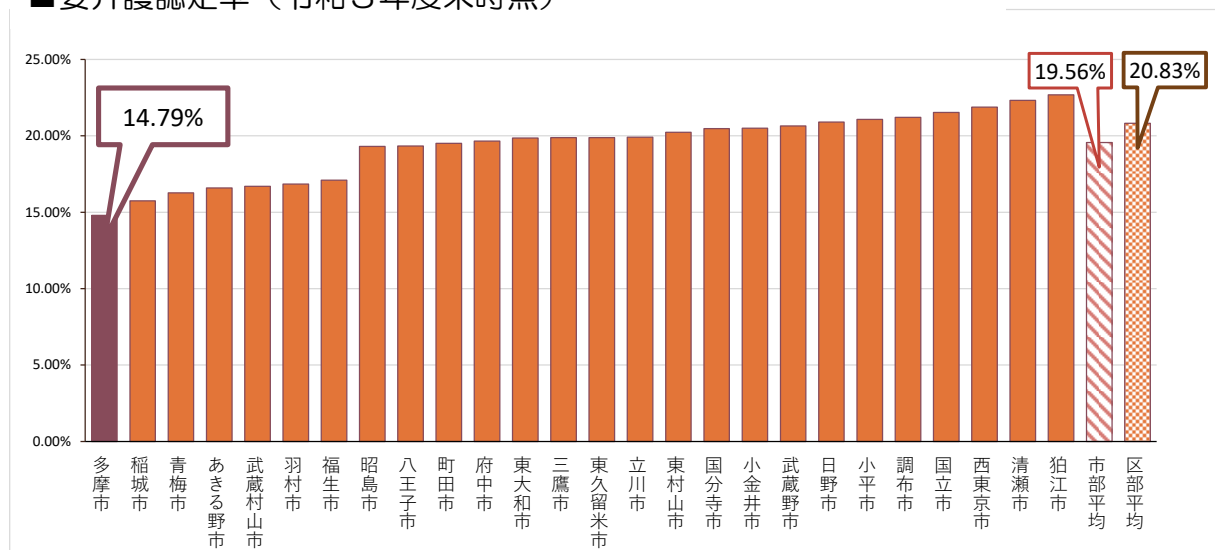
(2) 要介護認定率

要介護認定率とは、65 歳以上の方のうち、要介護認定を受けている方の割合を示すものです。

2021（令和3）年度末時点の多摩市の要介護認定率は、14.79%と、都内の市と区を合わせた 49 自治体の中で、最も低い割合です。これらのデータから、多摩市は元気な高齢者が多いまちであると言えます。

多摩市では、市民活動や NPO 活動などが活発に行われているなど、地域でいきいきと生活されている方が多いことも要因の一つと考えられます。

■要介護認定率（令和3年度末時点）



資料：厚生労働省 介護保険事業状況報告（月報）

(3) 新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともなう高齢者の健康二次被害

近年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともない、様々な活動に制約を受けています。市内 15ヶ所の地域介護予防教室で実施した体力測定の結果、コロナ禍の2年で、高齢者の運動機能の低下や外出機会の減少など、健康二次被害が進行していることがうかがえます。

■参加者の測定結果平均値の3年間の推移

項目	令和元年	令和2年	令和3年
握力(kg)	21.4	21.5 ↗	20.5 ↘
開眼片足立ち(秒)	37.9	37.1 ↘	33.1 ↘
5m通常歩行時間(秒)	3.8	3.7 ↗	3.9 ↘
5m早足歩行時間(秒)	2.7	2.8 ↘	2.9 ↘
TimedUp&Go(秒)	6.4	6.5 ↘	6.9 ↘
ファンクショナルリーチ(cm)	29.7	32.2 ↗	31.4 ↘

結果の概要：全ての項目で平均値が低下（悪化）し、転倒のリスクが上昇。昨年は悪化していなかった方が今年度は悪化し、コロナ禍で2年の経過の中で徐々に体力低下しているといえる。生活アンケートより、交友目的の外出の減少、主観的健康観が低い方が増加したことがいえる。

資料：高齢支援課（コロナ禍における高齢者の健康二次被害対策について）